

地域文化へ関心喚起

「教科書と一緒に読む 津軽の歴史」

弘前大学出版会賞 編著者2人表彰

第11回弘前大学出版会賞の表彰式がこのほど、同大附属図書館で行われ、受賞した「教科書と一緒に読む 津軽の歴史」(2019年7月31日刊行)の編著者2人に表彰盾が贈られた。

同書は「板碑から見る鎌倉時代の津軽」「津軽の山から世界へ―近世諸産業の発達と尾太鉾山―」など19項目で構成。津軽地方に軸足を置きながら、教科書に書かれた各時代の政治や文化の中心地の歴史と、津軽地方の歴史とのつながりや関係性をまとめている。教科書に見る日本の

歴史と津軽を相対化するという試みや、地域文化への関心を喚起している点が評価につながった。表彰式には編集・執筆を担当した小瑤史朗教授や篠塚明彦教授、執筆者の一人である瀧本書史教授らが出席。篠塚教授は「(教科書の)中には岩手から北は日本の姿として書か

第11回 弘前大学出版会賞表彰式



受賞を喜ぶ(左から)篠塚教授、小瑤教授、瀧本教授

れていないものあり、あえて津軽の歴史から考えた」とし、「地元の方たちが足下を見詰めるきっかけになり、

学校現場で使われて子どもたちの意識が変わってくればと願っている」と述べた。(成田真由美)

※この記事は陸奥新報社の提供です。

[問合せ先] 弘前大学出版会

hupress@hirosaki-u.ac.jp

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。